

塩 治

ENYA COMMUNITY CENTER NEWS

電話/0853-21-0248 Fax/0853-21-3837
メールアドレス/enya-cc@local.city.izumo.shimane.jp

コミュニティ センター報

No.202 [2021年9月22日発行]

塩治地区の世帯数と人口
令和3年8月末現在

世帯数	7,247世帯
人口	15,758人
(男)	7,681人
(女)	8,077人

7月14日(水)

ふるさと探訪

まちづくり部主催



汗ばむ陽気の中、20名が参加し、バスでふるさと探訪に出かけました。出雲弥生の森博物館を学芸員の説明を聞きながら見学し、西谷墳墓群史跡から止屋（やむや）の淵、来原岩樋を巡りました。来原岩樋では、ボランティアガイドの林さん手作りの紙芝居と面白い話に、みなさん興味津々で「語りべと熱のこもった紙芝居は大変よかった。」「長年住んでいても知らない事が多く楽しかった。」との感想がありました。中には70年ぶりに岩樋を見学された方もおられ、改めてふるさとに目を向ける良い機会となりました。



6月8日(火)

廃食用油石けん作り

女性部主催

コロナ禍の中、感染症対策を講じながら廃食用油石けん作りを行いました。牛乳パック17個分を参加者と女性部員で手際よく作り終わりました。

廃食用油と水と苛性ソーダで作る石けんは、肌や環境にやさしく、食器洗いやお風呂洗い、洗濯などに活用できます。

今回は10月24日(日)に行いますので、興味のある方はどうぞ、ご参加ください。

油汚れや土汚れがよく落ちるので助かります！



6月17日(木)

EMほかし・発酵液作り

まちづくり部主催

8名が参加し、2グループに分かれてEMほかしと発酵液を交互に作りしました。

EM(有用微生物群)のはたらきで作られるEMほかしは、土壌改良肥料として活用することができる肥料です。コロナの影響により、久しぶりの開催となりましたが人気の催しで、参加された方は活用法などの質問を交えながら楽しく作業しました。



7月18日(日)

みつろうラップ作り

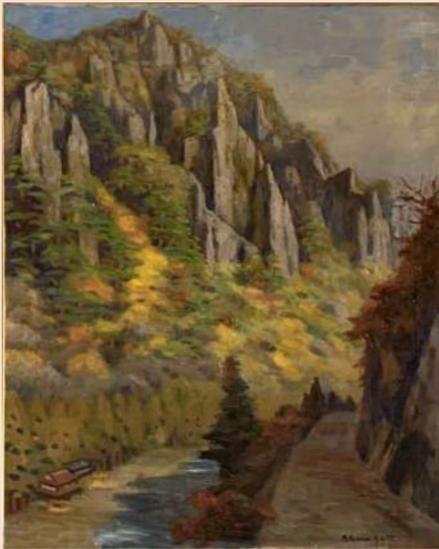
まちづくり部主催

エコなキッチングッズとして注目を集めている「みつろう(蜜蝋)ラップ」作りにチャレンジしました。みつろうラップはミツバチの巣から採れる『ろう』を布に染み込ませて作るラップです。当日は9名の参加があり、以前から興味を持っていたという方や、初めてみつろうラップのことを知ったという方もおられ、自分で作ったみつろうラップに愛着を深めておられました。



塩冶コミセン絵画紹介

コミュニティセンター内に展示している絵画と画家について紹介します。



立久恵峡

矢田 清四郎さん (1900~1977) 「立久恵峡」

簸川郡塩冶村に生まれ、東京美術学校で美術を学ばれました。在学中、第7回帝展にて『足拭く女』が初入選しました。卒業後は横浜、東京で教職に就かれ、1944年に帰郷されてからは大社中学校、大社高校に奉職されました。戦後は出雲美術研究所を創立し、美育振興に寄与されました。この間に光風会、日展に作品を発表し、活躍されました。出雲の風景を多く描き、「築地松の画家」とも称されました。代表作に『築地松』があります。

『立久恵峡』は影山昌平さんにご寄贈いただき、ロビーに展示しています。



大山



杜

矢田 安史郎さん (1911~1975) 「大山」「杜」

塩冶町に生まれ、島根師範学校を卒業され、県立今市高女、出雲高校にて教職に就かれました。東光会に参加され、東光展にて入選、奨励賞、日展にて入選しておられます。「たとえ死んでも、生まれ変わって来てまた絵を描く」とおっしゃられるほど絵を描くことに情熱を注がれました。



遊ぶ

嘉藤 大峻さん 「遊ぶ」

塩冶コミュニティセンターで行われている水墨画教室の講師をしてられました。2015年にご自身の作品をご寄贈いただきました。

日本水墨院展において内閣大臣賞や審査委員賞、特賞など受賞。これらの他に遙玄展会長賞、水墨画大賞展富山知事賞、新日美展大賞、同厚生大臣賞などを受賞しておられます。



花畑

平尾 博子さん 「花畑」

1931年生まれ、上塩冶町出身の画家。1981年、小豆澤禮先生の日本画教室に入会され、1983年、小豆澤禮先生に師事されました。1987年県展入選（金賞1回、銅賞2回、奨励賞1回）、シルバー展入選（優秀賞1回、知事賞2回）、ねんりんびっく全国大会入選（知事賞1回、銅賞1回）。1995年島根県日本画協会会員推挙、会員賞3回、会員奨励賞3回。2002年に島根日本画協会理事及び審査員に推挙され、ラピタ本店にて日本画三人展を開催されました。2017年9月に作品集『柳緑花紅』を出版されました。

『花畑』は8年会員奨励賞を受賞された作品です。



漁港

桑原 速夫さん 「漁港」

塩冶コミュニティセンターで行われている水墨画教室に参加しておられ、全国公募水墨画大賞展で入賞された作品をお貸しいただき、研修室に展示してあります。

2008年12月7日には第22回全国公募水墨画大賞展にて『龍頭ヶ滝』で大賞を受賞されました。その他にも数多くの作品で賞を受賞しておられます。

神戸川ジョギングコースの紹介

皆さんは、新型コロナウイルスが蔓延する中、運動不足解消に何かしておられますか。今回、出雲市都市建設部建設企画課が作成された神戸川ジョギングコースを紹介します。

このジョギングコースはA～Dコースがあり、自分の体力に合わせてコースを選べます。そして、各スタート地点には駐車場があるため、手軽に運動することができます。

塩冶地域が含まれるBコースを歩いてみました。斐伊川放水路事業記念館をスタートし、半分大橋を渡り、土手を進み、古志大橋を越え、対岸を一周する約4kmのコースになっています。このコースの特徴は、車両通行止め区間が多く安全に歩けることと、塩冶地区に沿っているので、地域から近いことです。古志大橋までの前半は、土手を降りた北側に塩冶南町東児童公園と塩冶南町西児童

公園があり、トイレと水のみ場が設置されています。西児童公園を過ぎるとトイレや水のみ場はありません。1周すると、ジョギングで30分、ウォーキングで40分～1時間で斐伊川放水路事業記念館に帰着します。

その他、Bコース後半で馬木新大橋を渡らず直進し、馬木大吊橋を渡る5kmコースや、馬木大橋を渡り、斐伊川放水路事業記念館へ帰る6kmのコースもあり、時間や体力を考えて選ぶことができます。

比較的アップダウンの少ない道ですので、ジョギングやウォーキングをする人たちや、部活動でランニングをする生徒たちとすれ違い、運動しやすいコースだと感じました。皆さんも運動不足解消のためにジョギングやウォーキングをしてみませんか。



神戸川ジョギングコースに関するお問い合わせ先
出雲市 都市建設部 建設企画課
TEL 21-65661

神戸川ジョギングコース案内

コース中に数か所目印があります。

今号の『えんや物語』

前号では、昭和初期の春・夏に子どもたちが神戸川で楽しんでいた様子や生息する生物についてお伝えしました。

今号では、前号の続き「続・神戸川の思い出」を掲載します。秋から冬にかけてはどんな生物が生息し、子どもたちは何をして楽しんでいたのでしょうか。昔と今を比べてみると面白いかもしれませんね。

えんや物語

第6号
平成11年9月発行
阪南公民館文化部
題字 万代順子氏

続・神戸川の思い出

神戸川の土手には沢山のバツタがいました。イナゴの様な恰好をしたイナゴより大きい殿様バツタ、頭が舟の様に尖ったバツタなどです。通称オマツと言う大きいのは体長八センチ程で、はじめは緑色ですが古くなると薄茶が混じってきます。保護色だと思えます。これを捕まえて両足を両手で持ちますと、飛ばうとして続けて屈伸をします。「オマツハタオレ、アシタハヤスメ」（オマツ機織れ明日は休め）と言って遊びました。

七月下旬から父に連れられて投網に行きました。主に鮎・エビナ捕りです。砂利が水面に頭を出している流れの速い浅瀬には群れをなしていましたが、素早く逃げるので一網に多くて五〜六匹でした。捕れない日は鮎を捕りました。水深三〇〜五〇センチで流れの緩やかな場所には十五〜二〇センチ程の鮎が群れをなしていましたから、これは一網に沢山入り魚籠はすぐ一杯になりました。

八月の盆さんが過ぎ、雨が降って川が増水するとカニや鰻が海に下がります。釣り糸に

餌のシイラの頭をつけて釣りますが、餌に付いたカニをそっと水面まで引き上げてたもです。籠つけは網籠にシイラの頭とかアラを入れ夕方沈めて朝引き上げますが、沢山捕れたものでした。

当時は十月から十一月にかけて稲刈りです。田に稲がなくなるとイナゴは神戸川の土手に上がります。イナゴは稲のためには害虫ですが、人間にとっては貴重な栄養源で、イナゴ三匹は鶏卵一個に匹敵すると言われ、私もよく捕ったものです。

天気の良い日、堰堤の下流には何時行っても蛙が数匹泳いでいました。

正月、神戸川へ・とんどさんの笹竹取りに行き、飾り付け等も小学校一年から高等科二年生までの子どもたちだけで行い、大人の世話にはなりません。

神戸川と周辺には色々な魚・虫、鳥では山鳥、雉・鴨・カイツブリ・ヒバリなど沢山いたし、山兎もよく見かけました。砂地にはアリ地獄もありました。私は、学校では学ぶことができない様々な貴重な知識を教わり、体験もしました。

現在の神戸川の水は見た感じはあまり変わりませんが、生息する魚の種類とその量は大変少なくなりました。それだけ水の汚濁が進んでいると思えます。

神戸川の治水事業に合わせて、山の動物たちが安心して住める豊かな森林と、排水の水質浄化がされて山から海まで共存できるようになれば、神戸川も昔の様な川に戻ることでしょう。われわれの世代に実現させて、子孫に残したいと切に思うしだいです。

（この文章は『神戸川物語』から文化部が抜粋しました）
（栗原 繁吉）

ご寄贈ありがとうございました

- ・影山昌平さんから、昭和時代に塩冶町を代表する画家・矢田清四郎さんの絵画、「立久恵峡」を寄贈していただきました。（2頁目に紹介）
- ・布野伸一さんから、原 石鼎に関する本や俳句に関する本59冊を寄贈していただきました。



文化祭中止のお知らせ

事業委員会で今年度のコミュニティセンター文化祭は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止することになりました。

来年は賑やかに開催できることを願っています。

今後の予定

- 9月28日 E Mほかし作り
- 10月中旬 区民ハイキング
- 10月24日 廃食用油石けん作り
- 10月~11月 花を植えて街をきれいに
- 11月 ふるさと探訪
- 11月 こんにやく作り
- 11月30日 暮らしに花を
- 11月下旬 そば打ち講習会
- 12月 5日 えんやっ子フェスタ
- 12月 豆腐作り
- 12月 館内一斉清掃
- 12月 仕事納め

※新型コロナウイルスの感染状況によっては急遽、中止する場合があります。

自衛消防訓練を実施



8月17日（火）に今年度1回目の自衛消防訓練を実施しました。

給湯室で火災が発生したと想定し、職員が初期消火・避難誘導・通報の役割を分担し訓練しました。避難訓練終了後には、非常時に備え、水消

火器の放水訓練と発電機の始動の訓練を行いました。

今後も火事が起こらないように気を付けて勤務し、万が一に備えて2回の訓練を続けていきます。